

研究のあしあと 4

令和5年度 久美浜小学校研究推進部

令和5年11月

10月2本目の研究授業は、3年生の総合的な学習の時間です。研究授業をするにあたり、大久保先生からも助言をいただき、思考ツールを使った授業にチャレンジをしていただきました。チャレンジをしないことには、何が良かったのか、改善すべきことは何かが分かりません。今回は、福富先生にたくさんのチャレンジをしていただき、先生方といろいろなこと（タイピングや思考ツールの活用等）を共有できた貴重な授業でした。お忙しい中、たくさんの準備や本時に至るまでのチャレンジ、本当にありがとうございました。

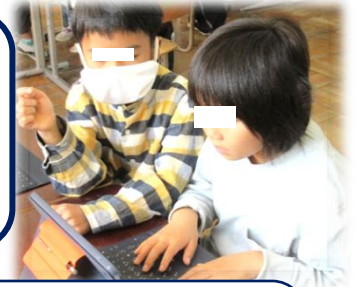


10月18日（水）2校時 校内研究授業

「久美浜の『すてき』を探ろう2」

～久美浜の良さを知らせたい～

3年生 授業者 福富 康子



研究主題としてのかかわり

校区内に広がる新しい店や老舗の店舗が混在することから、「久美浜町で店を開く理由・続ける理由」やお店の方の思い・願いを聞くことで、自分たちでは気付かなかった久美浜の良さに気づいたり、再確認したりできるような活動にしていきたい。そして、それらの良さをたくさん集めて、久美浜に住んでいることに誇りを持ち、その良さをより多くの人に伝え広める方法をみんなで考えていきたい。

研究授業・事前研究会〈10月11日（水）〉

授業者より

- ・年間を通して久美浜の素敵を探す。
- ・1学期は探究的な学習の流れを習得。
- ・2学期は校区に広がる店舗に目を向け、思いや願いを聞き久美浜の良さに気づく。
- ・思いを聞くことで久美浜に住んでいることに誇りをもつ。
- ・思考ツールの活用
- ・クラゲチャートの頭を充実させる発問とは？

意見・質問

- ・地域資源として、綿徳商店以外に老舗の店もあれば、気づき生まれるかもしれない。
- ・3年生に思考ツールが使いこなせるのか。
- ・発問については、児童に一番考えさせたいことをもってくと良い

研究授業・事後研究会〈10月18日（水） 司会・吉田 記録・川上（高学年グループ）

参観の視点（1）主体的に課題をもって探求する授業について

- ・はじめ、発問に対して瞬時に児童が主体的に動く様子がよかった。指導案通りに進められた。
- ・自分たちが行きたいところ、聞きたいことをしていくことが主体的になる
- ・1時間の流れを示すことは、見通しがもててよかった。
- ・タブレットを使うことで主体的に学びが高まっていることを感じられた。
- ・話し合おうとしているし、考えももっているが、タブレット操作に気を取られてしまっていた。話し合いとタブレット操作の同時進行が難しい様子が見られた。

参観の視点（2）地域とのつながりを深めることについて

- ・外から来た人の思いは意識しないと気づくことができないので、実際に話を聞いたり視点をもって聞いたりすることでただの景色から地域のことに興味をもつ良いきっかけになる。地域のことは意識していないとただの景色になる。
- ・お店の人⇒久美浜のことと子どもたちなりに感じられるものがある。そういう気づきをさせることが地域とのつながりや探究的な学びに繋がると思う。
- ・普段気にしない場所やものに視点を持たせる、気づかせることができる。見方ができる。気にするようになる。地域の繋がりとしていい学習だった。
- ・お店の人に直接話を聞いて考えているから、お店の人の気持ちを考えたり、感じたりした言葉がたくさんあった。地域に出ることの良さを感じた。

その他（今後の課題も含め）

- ・タイピングスキルが必要となってくる。発達段階に合わせて、ローマ字入力、かな入力（50音表）、フリック入力などタイピングに時間をかけない方法でしていくことも良いのかもしれない。
- ・クラゲチャートにキーワードを考え、みんなで一つの意見にまとめることの良い学習だった。
- ・思考ツールの使い方を示していただいた。



〈授業者の振り返り〉

※単元を終えて～事後研で学んだことや新たに実践したこと、その後の学習は？

生活科での「町探検」があったからこそできる学習だったように思う。こう思うと、生活科と総合的な学習の時間のつながりも感じる事ができ、1つ1つの体験が子ども達の身になり心に残っていくのだと感じた。

単元としての設定はよかったが、「探究的な学習」と「(タブレット操作やタイピングなどを含む) GIGA 端末の活用」についての兼ね合いが難しかった。本時では、これまで低学年までのペア学習の段階からグループでの話し合いもあったため、進行手順や話し合い方法の指導も併せて行う必要があったため余計だったのかもしれない。探究を本当に求めていくなら、タブレットを使って3年生のこの時期にあそこまでの思考ツールを使わせるのか？とも思うが、これからの時代の流れ等を考えるとタブレット操作も必要であり……。そう思うと、タイピングの時間やタブレット操作(アプリなどの活用方法)、思考ツール指導など、朝読書や昼ドリルなどの帯の時間や別カウントでの時数をとっていくことも今後必要になるのかもしれないとも強く感じた。しかし、今回使ったクラゲチャートやダブルチャートなど、子ども達はタブレットを使う時、楽しく活動できていたので、経験値が増えたことは結果的に良かったのではないかと考えている。

～今後の研究の方向性について（今回の研究で明らかになったことを踏まえ）～

地域のことは、意識していないとただの景色になる。

生活科と同様に、実際にその場へ行ったり、思いを聞いたりするなどの活動を通して、普段気にも留めなかった日常生活や社会に目を向けさせたり、気づかせたりすることに繋がる。そして、自分事として課題をもって探究する活動に繋がる。そこから、地域の良さを知れたり、興味をもったりするきっかけと繋がっていくのだろうと感じた。子どもたちなりに自分の故郷である久美浜町のこと、久美浜町の人について感じられることができた授業だったと思います。また、その学習を通して、1時間のゴールを共有することや思考ツールの活用の仕方を指導したり、友だちと話し合っ意見をもとめたりする力をつけていくことの大切さも学ばせていただきました。地域のことを学びながら、子どもたちにどのような資質・能力を身に付けさせていくのか、大久保先生にご指導いただいたことを再度思い出し、学ばせていただきました。チャレンジャー福富先生！ありがとうございました！